

令和6年度 県立八千代高等学校自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>総合学科の理念を活かし、一人一人の個性の伸長を図るとともに、生涯学習の礎となる知・徳・体を確立させ、時代の変化に応じて、創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人材を育成する。生徒に必要な力を5C=5つのChikaraとして捉え、教育活動のあらゆる場面でChallenge（挑戦する力）、Choice（選択する力）、Change（変化させる力）、Communication（つながる力）、Career（自分の未来を切り拓く力）を育てる。</p> <p>(1) 授業改善の取組を推進し、基礎学力の定着、学習意欲の向上を図るとともに、「教える」授業から「学ぶ」授業への転換により、自ら学び自ら考える力を育成する学校</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、道徳教育・特別活動や自然体験等をとおして、規範意識や豊かな人間性を育成する学校</p> <p>(3) 部活動の活性化、ボランティアなど協力しあう経験により、健やかな心身を育成する学校</p> <p>(4) 系列での学習を活かしながら、生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指すとともに望ましい勤労観・職業観を育成する学校</p> <p>(5) 「開かれた学校」を目指し、保護者・地域社会・異校種学校等と連携・協働しながら、教育活動の改善・充実を図り、郷土に対する愛情と協力しあう心を育てる学校</p> <p>(6) 「働き方改革」を念頭に、常に業務改善を図るとともに、ワークライフバランスのとれた信頼される教職員の育成を目指す学校</p>						
<p>三つの方針</p>	<p>具体的目標</p>						
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="315 740 786 890"> <p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p> </td> <td data-bbox="786 740 2145 890"> <p>(長期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に応じて創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人財 ・規範意識と豊かな人間性を身に付け、健やかな心身と他者への思いやりを持った人財 ・郷土に対する誇りや周りの環境に愛着をもち、地域社会の未来を牽引できる人財 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 890 786 1110"> <p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p> </td> <td data-bbox="786 890 2145 1110"> <p>(中期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の理念の下、生徒の多様な学習ニーズに対応した普通教科と専門教科の履修機会の提供 ・生徒一人一人の進路希望を実現させる、確かな知識・技能、より高度な思考力・判断力・表現力を育む授業・実習の実施 ・教育課程全般を通して、課題を発見し、仮説を立て取り組み、まとめ・表現し、次の「探究」サイクルへと繋げる学びをデザイン </td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 1110 786 1252"> <p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p> </td> <td data-bbox="786 1110 2145 1252"> <p>(短期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野に興味関心を持つとともに、自己の専門をより深く探究しようという意欲のある生徒 ・自己の将来を見据え、進路実現に向け日々努力することができる生徒 ・倫理観や規範意識があり、学校生活に積極的に関わる意志のある生徒 </td> </tr> </table>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>(長期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に応じて創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人財 ・規範意識と豊かな人間性を身に付け、健やかな心身と他者への思いやりを持った人財 ・郷土に対する誇りや周りの環境に愛着をもち、地域社会の未来を牽引できる人財 	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>(中期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の理念の下、生徒の多様な学習ニーズに対応した普通教科と専門教科の履修機会の提供 ・生徒一人一人の進路希望を実現させる、確かな知識・技能、より高度な思考力・判断力・表現力を育む授業・実習の実施 ・教育課程全般を通して、課題を発見し、仮説を立て取り組み、まとめ・表現し、次の「探究」サイクルへと繋げる学びをデザイン 	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>(短期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野に興味関心を持つとともに、自己の専門をより深く探究しようという意欲のある生徒 ・自己の将来を見据え、進路実現に向け日々努力することができる生徒 ・倫理観や規範意識があり、学校生活に積極的に関わる意志のある生徒
<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>(長期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に応じて創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人財 ・規範意識と豊かな人間性を身に付け、健やかな心身と他者への思いやりを持った人財 ・郷土に対する誇りや周りの環境に愛着をもち、地域社会の未来を牽引できる人財 						
<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>(中期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の理念の下、生徒の多様な学習ニーズに対応した普通教科と専門教科の履修機会の提供 ・生徒一人一人の進路希望を実現させる、確かな知識・技能、より高度な思考力・判断力・表現力を育む授業・実習の実施 ・教育課程全般を通して、課題を発見し、仮説を立て取り組み、まとめ・表現し、次の「探究」サイクルへと繋げる学びをデザイン 						
<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>(短期的目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野に興味関心を持つとともに、自己の専門をより深く探究しようという意欲のある生徒 ・自己の将来を見据え、進路実現に向け日々努力することができる生徒 ・倫理観や規範意識があり、学校生活に積極的に関わる意志のある生徒 						

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>総合学科の特長を活かし“個性をみがき 夢をかたちに”をモットーに「一人ひとりの個性を活かす教育」を推進している。5つの系列（文理総合、基礎教養、自動車・電機、商業実務、福祉・家庭）を編成後10年が経過し、成果の検証とさらなる教育内容の充実を図る時期を迎えている。また、生徒に必要な力を5C=5つのChikaraとして捉え、教育活動のあらゆる場面でChallenge（挑戦する力）、Choice（選択する力）、Change（変化させる力）、Communication（つながる力）、Career（自分の未来を切り拓く力）を育てるための取組を充実させたい。</p> <p>令和5年度は、学習指導の重点目標として、①学びの基礎診断、②生徒による授業評価における授業満足度、③教員によるICT活用状況、の3点についてKPIを示して取り組んだ。授業改善推進チームを中心とした取り組みとして、異校種授業参観や、校内相互授業参観、先進校視察、新たな教育プラットフォームの導入の研修会等を行った。そのような活動を通して、各教員の授業改善に対する意識が向上し、②③の達成へとつながったと考えられる。一方で、①の達成のためには、学びの基礎診断と日頃の授業や課題等を関連付けた指導が求められる。</p> <p>全般的に生活態度は落ち着いているが、交通関係で規則違反をする生徒が多い。また、安全意識が希薄なため交通違反や交通事故も複数あり、自転車・バイク通学者に対する運転意識・実技両面での指導の徹底が必要である。キャリア教育の一環として、挨拶や場に応じた服装・言葉遣い・礼儀作法を順守させる指導が求められる。さらに、服装・容姿等のマナーアップや生活指導両面での指導の徹底が求められる。</p>	<p>1 基礎学力の定着、学習意欲の向上、自ら学び考える力の育成、授業改善の推進</p>	<p>① 「授業が一番」とし、「チャイム始業」を徹底して1分1秒を大切にした授業を展開するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実践を図る。授業改善推進チームを中心に、相互授業参観や異校種授業見学および指導主事訪問等を利用して、指導方法の工夫・改善に努める。</p> <p>② 「何を知っているか」だけでなく「何ができるか」を重視し、「わかる授業」を実践し基礎学力の定着を図る。「自分の考えを書いてまとめ、発表する」、「他者に説明する」等の言語活動の充実をとおして、自己表現能力の育成に努める。</p> <p>③ 課外授業や各種検定・資格試験、模擬試験、各種大会やコンクール等への参加等を効果的に取り入れ、発展的な学習の機会を確保するとともに、多様な進路希望に対応できる学力の養成を図る。</p> <p>④ 予習・復習や課題等に取り組むための個別最適な方策を講じて家庭学習を習慣化し、基礎学力および学習意欲の向上を図る。</p> <p>⑤ 「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにICTを活用し効果的な指導の工夫に努める。</p> <p>⑥ 生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均3.5以上を目指し、授業評価をうけた授業改善を実践する。</p>	B
	<p>2 基本的な生活習慣の確立、規範意識や豊かな人間性の育成</p>	<p>⑦ 全職員の共通理解に基づいた服装容儀指導を実施するとともに、挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法の指導等、基本的な生活習慣の確立に努める。</p> <p>⑧ 道徳教育や特別活動、自然体験や読書活動等をとおして、自他を尊重する心、奉仕する心、感動する心等の豊かな心を育成する。</p> <p>⑨ LHRや特別活動、道徳教育等をとおして社会規範や校則を遵守する意識を培い、校則違反者の減少に努める。</p> <p>⑩ 特別活動や講話等をとおして、危機管理（交通マナー・インターネットマナー・防犯等）に対する意識の醸成と危機回避能力の育成を図る。</p> <p>⑪ 個に応じた指導を充実させるため、個別面談や職員間での情報共有を適切に行い、必要に応じて外部機関とも連携してより効果的なチーム指導を推進する。</p>	B
	<p>3 特別活動や部活動の活性化をとおした健やかな心身の育成</p>	<p>⑫ LHR等における指導内容を工夫・改善し、年間計画に基づいたより効果的なホームルーム活動を推進する。</p> <p>⑬ 生徒の自主的・自発的な活動を推進し、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>⑭ 文化祭や体育祭等の学校行事をとおして、協力しあう心や責任感を育む。</p> <p>⑮ 部活動の指導においては、心身の発達に応じた科学的な手法を取り入れながら工夫・改善するとともに、発表する場や練習試合等をとおして実践的な力を向上させ、生徒の健やかな心身の成長を図る。</p>	A

<p>特別活動においては、昨年度は、多くの学校行事がコロナ禍以前と同様の実施となり、学校に活力が戻ってきたように感じる。今年度は学校行事の効率化を図りながら、適切な開催に向けて準備を進めていく。各部の活動は活発であり、関東大会や全国大会等の上位大会に出場する部活動も多い。4月時点では、多くの新入生が部活動に参加している状況である。さらなる部活動の魅力向上に向けて、学校全体で指導方法の工夫・改善に取り組んでいきたい。</p>	<p>4 進路希望の実現、望ましい勤労観・職業観の育成</p>	<p>⑩ 3年間を見通したキャリア教育計画の下に、個別面談等によるキャリアガイダンスを充実させて早期から進路意識の醸成を図るとともに、生徒一人ひとりの能力や適性に基づいた、計画的な進路指導を実践する。</p> <p>⑪ 系列での学習を活かしながら、進学指導の充実と就職内定率100%を目指し、個に応じたきめ細かな進路指導を推進する。</p> <p>⑫ 外部講師による講演会や企業・学校見学、実習等をとおして、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。</p> <p>⑬ 礼法指導や小論文・面接指導、資格取得等を活かして、進路決定率の向上を図る。</p>	<p>A</p>
<p>令和5年度における進路先割合と昨年を比較すると、大学・短大進学が17.8%で2.2%減、専門学校進学が39.7%で7.7%増、就職40.8%で6.2%減であった。専門学校進学への割合が増えた年度であった。就職求人社数は1038社と昨年度より若干増加した。本校における就職内定率は、過去十数年以上100%を維持し続けている。大学進学に関しては、進学率アップを目指したが減少してしまったが、数年ぶりに国公立大学合格者を出すことができた。</p>	<p>5 保護者や地域社会等との連携・協働</p>	<p>⑭ ホームページや広報誌、学校紹介ビデオ、在校生による学校説明等をとおして、学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域社会からの要望や提言を検討し、学校教育の改善・充実に活かす。</p> <p>⑮ 中学校などの異校種学校等への訪問を効果的に実施し、情報や意見の交換をとおして連携を密にし、地域社会から信頼される学校を目指す。</p> <p>⑯ ボランティア活動や部活動、探究的な学び等で、地域社会の行事に積極的に参加し、交流を深めるとともに、地域社会との連携・協働を推進する。</p>	<p>A</p>
<p>緊急情報メールや学校ホームページの適切な活用により、開かれた学校づくりを目指し、地域における信頼ある学校としての地位を更に確立し、広報紙や在校生による学校案内を積極的に行い、志願者の確保にも努めたい。</p> <p>また、令和5年度の時間外在校等時間における月平均時間は27時間16分、月平均45時間超過者割合は15.4%、月平均80時間超過者割合は0%であった。</p>	<p>6 業務改善と働き方改革の実現、ワークライフバランスの達成</p>	<p>⑰ 外部専門家の活用、学校行事の精選、文書事務の簡略化、完全退勤時間および定時退勤日(週1回、月6回程度)の設定など業務の改善に取り組み、職場環境の向上を図るとともに勤務時間の短縮を推進し、心身ともに健康なワークライフバランスのとれた信頼される教職員の育成を推進する。</p> <p>⑱ 生徒、保護者、地域から信頼される教職員として服務規律を遵守する。</p>	<p>B</p>

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務部	多様な生徒に対応し、授業改善を通して基礎学力の定着と学力向上を図る。	適正な授業時間の確保に努め、チャイム管理を適切に行うとともに、チャイム始業を励行する。 ①②	B	B	学校全体の生徒による授業評価における授業満足度は3.58であり、目標を達成できた。一方で、教科の枠を超えた授業改善の工夫の共有や、指導と評価の一体化に向けた研修を行っていくことが求められる。
		授業改善推進チームを中心に指導方法の工夫・改善に努め、生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均3.5以上を目指す。 ①⑤⑥	A		
		各年次のシラバスの作成にあたり、評価基準の更なる適正化と観点別学習評価の一層の充実を図り、指導と評価の一体化を推進する。 ②③④⑥	B		
		生徒の学習状況及び出席状況に関する情報の共有を徹底し、時期に応じた指導の構築を図る。 ②⑪⑬	A		
		各種調査・統計・アンケートを実施し、生徒の実態・変容を把握し、次の目標設定に資するよう情報提供に努める。 ②③④⑥⑬	B		
	総合学科としての教育活動の充実・発展を図る。	各系列・年次の学習活動が円滑に進むよう、総合学科特有のきめ細かな運営が必要とされる時間割編成、定期考査、教科書選定、授業変更等の事務作業を適切に行う。 ①②③⑪⑬	A	A	完成年度を迎えた新教育課程について、各系列の特色ある授業を展開できているが、総合学科の魅力の1つである選択科目の在り方について継続協議が必要である。
		各系列・教科と連携し、生徒の実態や多様な進路実現に対応した適切な教育課程を検討する。 ①⑬⑭	B		
		各種検定・資格取得を励行し、表彰式をとおして顕彰に努める。また、増単位認定に係る事務手続きを確実かつ迅速に行うための年次・教科の連携を促進する。 ③④⑬	A		
	校内研修の充実を図る。	学力向上委員会・授業改善推進チーム・フォローアップ委員会・人権教育委員会などと連携し、各種校内研修会を年間計画の中に位置づけ、意識啓発と情報共有に努める。 ①⑥⑪	B	B	各委員会を定期的に開催し、関連分掌と連携を密にできたが、次年度は授業改善推進チームを中心とした校内研修に力を入れていきたい。
		各教科・系列と連携し「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るとともに、相互授業参観充実のための具体的な方策を提言・実施する。また、授業改善チームを中心とした研修を実施し授業の改善につなげる。 ①②③④⑤⑥	B		
	広報活動を充実させる。	魅力的な学校案内パンフレットを作成し、中学校訪問及び学校説明会等で活用する。 ⑳㉑	A	A	オープンスクールへの参加者が昨年度比108%であり、内容も充実させることができた。一方で、地域連携においては、小学生対象のボランティアは実施できなかったものの、地元中学校への出前授業等を新しく実施できた。
		年2回のオープンスクールデー及び学校公開を充実させる。 ⑳㉑	A		
		教育活動の円滑な運営と広報のため、緊急配信メールの加入について説明する機会を増やし、加入率の早期向上に努める。また、配信頻度を上げて各部・年次・系列などの必要な情報を適正に発信する。 ㉑	B		
		小学生対象学習ボランティア等を通して、積極的に地域との連携を図る。 ㉑㉒㉓	B		
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 ㉓	A	B	デジタル採点ナビの活用により採点業務の時間削減を促進したい。また、各行事内容を定期的に見直し、業務量の効率化に努めたい。
学校行事の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。 ㉓		B			
完全退勤時間および定時退勤日を設定する。 ㉓		B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
生徒指導部	生徒一人ひとりの社会的な資質を育み、基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育てる。	服装頭髪指導及び挨拶指導の徹底を図る。 ⑦	B	B	一部の生徒が制服をルーズに着用し、基本的な生活習慣が確立されていない者もいる。
		欠席・遅刻・早退に対する個別指導の徹底を図る。 ⑦	B		
	問題行動の未然防止・早期発見を図る。	被害調査・個別面接等を適宜実施する。 ⑧⑨⑩	A	A	
		巡回・通学指導を計画的に実施する。 ⑧⑨⑩	A		
		貴重品袋の活用や施錠の励行などにより、盗難防止対策の徹底を図る。 ⑧⑨⑩	B		
	生徒指導の実施により、充実した学校生活を送れるよう環境作りに努める。	生徒への適切な説明を行いながら、手順に沿った生徒指導を実施する。 ⑧⑨⑩	A	A	
		問題行動に対する迅速な対応に努める。 ⑧⑨⑩	A		
		学校行事や特別活動がスムーズに行えるよう警備面でのサポートに努める。 ⑧⑨⑩	A		
	交通安全指導の徹底により、安全意識の高揚及び事故の未然防止を図る。	自転車・バイク点検および交通安全指導の適正化を図る。 ⑨⑩⑪	B	A	生徒への自転車・バイク運転の無事故・無違反の指導を徹底していきたい。
		二輪車安全運転実技講習会等への参加を徹底し、安全運転の意識を高める。 ⑨⑩⑪	A		
普通車免許の取得に関する注意喚起に努めるとともに、安全講習を実施する。 ⑨⑩⑪		A			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	完全退勤時間および定時退勤日を設定する。 ㉓	A	A		
進路指導部	希望進路実現を目指し、工夫しながら指導に努める。	早期の就職内定率100%を目標に、キャリア教育を促進させて入社試験に対応できる能力を育成し、さらに生徒の個人的弱点等を把握するため、進学模試を活かしつつ、家庭学習と進学課外への積極的な取組につなげる。 ③④⑬	B	B	・英検が推薦入試等で重要な役割を果たすため、英語科との連携を密にする。 ・就職希望者向けの学力アップ課外の実施。
	進路指導のために授業改善の推進を意識する。	基礎学力から応用的学力に発展させるために、生徒による授業評価における授業満足度の評価平均3.5以上の授業改善を意識し、各年次における進路指導の質的向上を目指す。 ①②④	A	A	
	生徒・保護者・地域・進路先と進路情報を共有した進路指導を目指す。	進路室の資料等の整理に努力し、それらの資料を生徒及び保護者が閲覧し易いように務める。 ⑮⑯	A	A	・Classi等による進路情報提供の継続。 ・求人企業リストの工夫。
		求人企業や上級学校の情報等を広く共有することで、より効果的な進路指導を目指す。 ⑯⑰	A		
働き方改革上での進路指導業務を目指す。	他分掌と協力しながら、より良い進路決定ができるように努める。 ⑨⑯⑰	B	B	3年生面接練習指導サポートの拡大。	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
保健厚生部	安全・衛生管理に注意し学習環境を整える。感染症対策を全校生徒・全職員に周知・徹底させる。	「学校保健計画」を基に、適切な実施・運営に努める。⑱	B	A	学校保健計画を定期的に閲覧し、校務を遂行する。
		保健室の円滑な運営と管理に努める。休憩室の設置。⑱	A		
		各種検診・身体測定を円滑に実施し、適切な事後処理に努める。また、データの処理及び管理を適正に行う。⑱	A		
		校内の環境・安全・健康管理に関する情報の周知に努めるとともに、緊急時は適切な対応をとる。手洗い・うがい・アルコール消毒の励行。3密(密閉・密集・密接)を防ぐ。⑱	A		
		パン販売・自動販売機の品目の検討を進めると共に、販売内容の充実と改善に努める。⑱	A		
	生徒の自己管理能力を養い、自律的な生徒の育成を目指す。	保健学習・指導を通して、健康管理の意識高揚を図る。⑦	B	A	学校行事と教科「保健」の連携を図る。
		個別面談・カウンセリングをとおして自己を客観的に捉えさせ、その行動変容を促す。⑥⑦	A		
	特別な支援を必要とする生徒への支援体制を整える。	フォローアップ委員会の効果的な活用と機能の充実を図り、年次・関係職員・保護者との連携を図りながら支援に努める。⑨	A	A	特別支援教育の職員への啓発を図る。
		講演会や研修会を通して、特別支援教育の啓発や教育相談の利活用の促進に努める。⑱	B		
		学校医(精神科医)、スクールカウンセラー、その他外部諸機関との連携により、支援を必要とする生徒の早期発見と適切な対応に努める。⑨	A		
	防火防災意識の向上	学校防災計画・学校緊急対応マニュアルを作成し、防火防災に対する意識向上を図るために防災訓練を実施する。⑨	A	A	地域住民と連携した防災訓練を実施する。
		学校防災連絡会議を行い、地域と連携した避難訓練をとおして生徒と地域住民の実践的な態度を育成する。⑳	B		
		ストーブや灯油の安全な取扱を徹底させる。⑨	A		
	環境美化意識の向上	日常的な声かけをとおして自発的な環境美化意識の向上を図る。⑦	B	B	生徒自ら環境美化に努める意識の向上を図る
清掃用具の点検・整備を行い、校舎内外の整頓・美化に努める。⑦		B			
カーテンのクリーニングとワックス塗布を実施する。⑦		A			
清掃用具やモップ交換を自主的に実施できるよう、その方法改善に務める。⑦⑧		B			
生徒が花壇への植栽活動を主体的に行うことができるよう支援を強めていく。⑦		B			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	学校行事の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。㉓	B	B	退勤に関して職員への呼びかけを行う。	
	完全退勤時間および定時退勤日を設定する。㉓	B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動部	豊かな心を育成・推進する。	豊かな心推進委員会や年次との連携を図り、担任のLHR支援を行う。 ⑪	B	B	年次とのさらなる連携を図り、LHR支援をおこなう。 生徒会を中心に生徒の意見を各行事に反映させていく。 今年度の反省を活かし、さらなる充実を図る。 生徒の主体的取り組み、専門知識の研修会等を実施し、活動内容の充実を図る。 地域との連携により、活動機会を広げていきたい。 今年度同様、速やかな更新に努めていきたい。 状況に応じて行事の精選等、継続しておこなっていく。
		教員研修会や道徳授業参観をとおして、道徳やLHRの支援を行う。 ⑪	B		
	生徒会活動を中心とした学校づくりを行う。	教員と生徒会役員・HR役員が連携し、学校行事やHR活動を計画的に進める。 ⑪⑬	A	A	
		学校行事やHR活動をとおして生徒理解に努め、リーダーの育成を図る。 ⑫⑬	A		
	生徒と教員が協力し学校行事を成功させる。	充実した学校行事を実施するため、生徒と教員が内容や方法の改善に向けて創意・工夫を凝らし、その成功に努める。 ⑫⑬	A	A	
		野球応援の伝統を守り、学校全体で積極的に取り組む。 ⑪⑬	A		
	部活動の活性化を推進する。	自主的・積極的に部活動に参加する態度を育てる。 ⑫	A	B	
		各部活動の部長を通じて、主体的な部活動実施の指導を行う。 ⑫	B		
		指導内容に科学的な手法を取り入れ、競技力の向上につとめる。 ⑭	B		
		体験入部制を実施し部活動加入率の向上と退部生徒の減少を図り、活性化に取り組む。 ⑭	A		
ボランティア活動を積極的に行う。	特別支援学校や地域で行われるボランティア活動に積極的に参加し、交流を深める。 ⑳	B	B		
	生徒会とともにワクチン接種のためのキャップ集め運動等を積極的にを行う。 ㉑	A			
広報活動を積極的に行う。	学校ホームページ内の各部活動の内容を定期的に更新するよう各部活動顧問に促す。 ⑲⑳	A	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	学校行事の精選や、学校行事ごとの書類整理等により業務を効率化し、業務負担の軽減に努める。 ㉓	A	A		
	部活動の休日の確保、科学的指導による活動時間の短縮により、部活動顧問の負担軽減を図る。 ㉓	A			
図書部	図書館内の環境整備を行い、図書室利用を促進する。	書架の増設や配架位置を適切に行い、利用しやすい環境作りに取り組む。また、古い書籍・資料の除籍を進め、適切な環境の維持に努める。 ⑧	A	A	図書館内の環境を整え、生徒の読書への興味関心を促す。
		最新の書籍・資料を揃え、情報センターとしての機能を高める。 ⑧	A		
		教科と連携して書籍・資料を購入し、併せて授業利用に即した環境作りに努める。 ①⑧	A		
		図書館を利用する生徒のマナーアップに努め、校内読書感想文コンクール等の実施により、一層の有効利用を促す。 ⑦⑧⑨	B		
		委員会活動を活発化させて各種図書館行事を行い、Webページ等をとおして情報発信に努める。 ⑧⑬⑲	B		
		図書館報「あすなる」や年2回の「八千代INDEX」を発行し、図書紹介の企画を定期的に行うなど、生徒の読書への興味関心を喚起する。 ㉑	A		
視聴覚機器・資料の有効活用と管理を充実させる。 図書館内の環境整備を行い、図書室利用を促進する。	教科学習や進路学習に関する最新の視聴覚資料を揃え、管理や貸出しを有効に行う。 ⑦⑯	B	B	古い書籍・資料の除籍を進め、更に、より良い環境にしていく。	
	視聴覚機器の準備・操作などを積極的に行い、視聴覚委員の活動を活性化させる。 ⑬	B			
	書架の増設や配架位置を適切に行い、利用しやすい環境作りに取り組む。また、古い書籍・資料の除籍を進め、適切な環境の維持に努める。 ⑧	A			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。 ㉓	A	A	適切に、図書館の開館時間の精選を行っていききたい。	
	図書館の開館時間を精選し、定時退勤時間及び退勤日を設定する。 ㉓⑳	A			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	評価	次年度(学期)への主な課題
情報管理部	情報機器等の管理運営を行う。	現在そして今後の情報機器の適切な配置を考え、教育環境の充実を図る。①	A	A	「茨城県立八千代高等学校情報セキュリティ実施手順を定める要項」の運用を、浸透するよう努力する
		適切な教育情報ネットワークの管理を行う。①③	A		
		「茨城県立八千代高等学校情報セキュリティ実施手順を定める要項」等に沿って、適切に処理する。⑨⑩	B		
		緊急配信メールの管理等を行う。⑳	A		
	情報スキルアップのための研修を企画する。	業務内容の改善および業務効率の向上を目的とした教職員研修を企画・実施する。①③	A	A	貸出人の管理をもう少し、徹底する。
		校内サーバの管理・各種機器の貸し出しなどを行い、適切な利用を呼びかける。①③	B		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ワークフローを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。㉓	A	A		
	業務内容の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。㉓	A			
渉外部	PTA活動の充実を図る。	支部総会、PTA総会の出席率を高め、充実を図る。㉔	B	A	・PTA総会の充実を図り、出席率を向上させる。 ・PTA会則の改正、組織改編を実施し、支部の廃止と年次PTA活動の充実を図る。 ・創立50周年記念事業に向けた計画的な準備と実施。
		本校の実状に即したPTA・後援会会則の改正、組織改編に向けた検討を行う。㉔	A		
		緑風祭への保護者の協力を促す。㉔	A		
		広報誌の年2回発行と内容の充実を図る。㉔	A		
		年次PTA活動の充実を図る。㉔	B		
		全国高P連茨城大会の協力を通して、PTA活動への意識を高める。㉔	A		
		県西地区高P連事務局校として、ICTを活用し文書事務の簡略化に努める。㉔	A		
一年次	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成	服装頭髪指導等を通して適正な制服の着こなしや身だしなみについての徹底を図るとともに、欠席・遅刻・早退の増加の防止を図り、基本的な生活習慣の確立に努める。⑦⑨	A	A	服装や言葉遣い、規範意識等を確立させるためには、普段からの声かけが重要である。清掃以外にも破損箇所等がみられたら放置せずに修繕等の対応が必要。
		年次集会時の講話等とおして、SNSや交通安全のマナー等、社会生活を送る上で必要な規範意識を育成するとともに、集団の中で自律的な行動がとれるよう働きかける。⑦⑨⑩	A		
		清掃活動とおして、生徒の自主的・自発的な活動を推進し、教室等の環境整備に努める。⑧⑫⑬	A		
	基礎学力の定着と早期の進路希望決定に向けての支援	家庭学習の習慣化を図り、自主的・積極的に授業に取り組む姿勢を育成する。①②⑥	C	B	学力の進捗を定期的に評価し、必要な支援を早期に発見・提供する体制を整える。「産社」については年次裁量の部分が多く「産社・総合委員会」を十分機能させるなど関係部署との連携が必要。
		義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学び直しとして、朝学習を取り入れ、基礎学力を含めた学力向上を目指す。②④⑥	B		
		手帳等を有効活用し、日常的にメモを取ることで提出期限を守る習慣が身に付く。①②	B		
		「産業社会と人間」の授業や科目・系列ガイダンスを通して、一人ひとりの適性や進路希望を活かす指導を図る。③⑫⑬⑭	A		
	人間尊重の精神に基づく人間関係の構築	ホームルームや学校行事を利用して、自他の尊重に基づくクラス経営に努める。⑨⑫⑬⑭	A	A	道徳の授業に限らず平日頃から豊かな人間性の育成を意識することが大切。
		道徳の授業とおして、豊かな人間性の育成を図る。⑦⑧⑪	A		
		部活動への積極的参加を促し、継続する強い意志を育てる。⑭	A		
	生徒理解及び家庭との連携	個別面談を実施し生徒理解を深め、家庭との連携を密にすることで、いじめや問題行動の早期発見・対応に努める。⑩⑫⑬	A	A	日頃から生徒や家庭の状況に配慮しながら、教員間で情報を共有しておくことが必要。
		生徒や家庭の状況に配慮しながら、教員間で情報を共有し、共通理解を図る。⑩⑫	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	教職員が業務内容の精選等を行い、勤務時間の削減に向けて意識改革が進むよう働き方改革に係る校内での取組を推進する。㉔	C	C	年間行事予定の定期的見直しと多忙化の改良点を探る。	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
二 年 次	進路実現のための支援	民間企業の学習講座等を利用して、家庭学習を習慣化させるための機会を計画的に設け、基礎学力の定着と向上に努める。 ⑬⑭⑮	B	A	
		進学課外の実施、各種検定合格や資格取得に向けて積極的に取り組むよう働きかけ、目的意識を持って学ぶ姿勢を育てる。 ③④⑮	A		
		個別面談や進路ガイダンス等を通じて生徒理解を深め、自己の適性や能力を自覚させるとともに、希望進路の実現に向けて何をすべきかをしっかりと認識させる。 ⑬⑭	A		
	基本的な生活習慣と規範意識の確立	挨拶の励行や礼儀作法、指導時間を守ることを徹底し、欠席・遅刻・早退の防止を図る。 ⑦	B	B	欠席等の減少
		制服の着こなしや身だしなみに注意し、正しい着用について継続的な指導を行う。 ⑦	B		
	保護者や地域社会との連携	保護者への細やかな対応と生徒の様子について共通理解を図り、いじめや問題行動等の未然防止、早期発見対応に努める。 ⑳	A	A	
		ホームページ等とおして、積極的な学校情報の発信に努める。 ⑳	B		
		探究的な学び等で、地域社会に積極的に参加し交流を深めるとともに、地域社会との連携・協働を推進する。 ⑳㉒	A		
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する	ICTを活用し校務の効率化を図る。 ㉓	B	B	業務負担の軽減
		外部専門家(部活動指導員やベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。 ⑬⑭⑮㉓	A		
三 年 次	1. 生徒一人ひとりのニーズに合った指導による進路実現 2. 進路実現に向けた授業改善	進路別ガイダンス等の進路行事や個別面談等を充実させることにより、進路や資格取得等に対する意識を向上させ、各自の進路実現を図る。 ⑬⑰	A	A	
		基礎学力定着のため、授業や定期考査に臨む意欲の向上と自ら学ぶ態度の育成を図る。 ④	A		
		進学課外・進学模擬試験・公務員講座等への積極的な参加を促す。 ③④⑬⑰	A		
		進路実現を見据え、各種検定・資格の取得を励行する。 ③	A		
	自主性・社会性の育成と望ましい勤労観・職業観の醸成	進路指導部との情報交換を密に行い、生徒の進路決定に向けた環境整備に努める。 ⑪⑬⑰	A	A	
		社会人として必要な身だしなみ、礼儀作法やマナー、報告・連絡・相談の徹底をめざし、きめ細やかに継続的に指導をするとともに、自発的に行動する力を育成する。 ⑦⑧⑨⑱	A		
		最高年次として、生徒会活動・部活動・学校行事・周辺地域でのボランティア活動等の中心となって活動できるよう、積極的な参加を促す。 ⑫⑬⑭⑮㉒	A		
	保護者や地域・社会との連携	「総合的な探究の時間」においては、進路ガイダンス等を通して、望ましい勤労観・職業観の育成を図り、社会人として活躍するための素養を身につける。 ⑩⑬	A	A	
		家庭との連絡を密にとり、生徒の小さなサインや変化を見逃さないよう努めるとともに、各校務分掌・外部機関等と連携して適切に生徒の指導や支援にあたる。 ⑪⑳㉑	A		
	働き方改革に関する目標	ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 ㉓	A	A	Classiでの連絡は、非常に効果的であった。
外部専門家(部活動指導員やベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。 ⑬⑭⑮㉓		A			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語科	基礎学力の定着	文章を読み書きすることや話すことを通して、生徒自身が主体的・対話的に言語に対する深い知識と関心、活用の仕方を身につけられるような授業に努める。 ①②⑤	A	A	小論文を始め文章を書く機会を多く設定し、漢字学習と書く能力両方の向上を目指す。
		朝ドリルや漢字コンクールを実施することで、漢字学習に対する意識を高め、資格取得へとつなげる。 ③④	A		
		文章を書く機会を多く設定し、小論文等の実用的な文章を主体的に構築するための「書く能力」の向上に努める。 ③⑯	B		
	授業内容改善の推進	ICTを活用し、意見共有の可視化や考察の蓄積を踏まえた授業を展開し、多様な進路に対応できるよう推進する。 ②⑤⑥⑱	A	A	相互の授業参観を積極的に行い、授業内容の検討と改善に努める。
		相互の授業参観や定期的な情報交換をすることで授業内容の検討と改善の機会を多く設け、生徒の実情を踏まえた読解力・表現力の育成を目指し、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。 ②④⑥	B		
	人間性を育む授業展開	意見の交換や他者の意見に耳を傾けることで、自分自身の考えを客観的に考え構築する力の育成を目指すし、対話による深化の機械を意図的に授業内で設ける。 ②⑤	A	B	3年間で目指すおよその目標や資質能力を教科間で共有し、学力向上・進路実現に努める。
		自分の考えを論理的に表現する力を育成するため、3年間を見通した作文・小論文指導を計画し、進路達成率100%を目指す。 ②⑰	B		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。 ⑳	B	B	今後ともICTを駆使してワークライフバランスのとれた環境づくりに努める。	
地歴公民科	学習意欲の向上と、自ら学び考える力の育成	主体的・対話的で深い学びを実現できる授業内容を研究し、わかる授業の実現と生徒の主体的に学習に取り組む態度の向上に努める。 ①	A	A	主体的・対話的で深い学びを実現できる授業内容を研究し、さらに充実させる。
		考えをまとめ、発表する、他者に説明することとおして、思考・判断・表現の育成を図る。 ②	A		
		ボランティア活動や探求学習で、地域社会の行事に積極的に参加し、地域や社会との連携・協働を推進する。 ②	B		
	授業内容改善の推進	ICTを積極的に活用し、時事問題を含めた発展的な学習を取り入れる。生徒による授業評価における、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。 ⑤⑥	B	B	教科間、他教科の授業の相互参観を積極的に実施し、さらなる校内研修の充実を努める。
		知識だけでなく、言語活動の充実を重視する授業を展開するために相互授業参観の機会を設け研修を行う。 ①②	B		
	進路実現に向けた知識の構築	ICTを活用することで、主体的に必要な情報を手に入れる力を養うとともに、それらの情報をもとに対話的で深い学びを実現できるように努める。 ⑤	B	B	さらなるICT活用を目指し、主体的に必要な情報を手に入れる力を養うとともに、的確な判断力を育成する。
		職員間の情報共有をとおして、個々の進路希望に即した授業を行い、個別指導の充実を図る。 ③⑪	B		
系列での学習を活かしながら、進学・就職を意識した授業内容の精選に努める。 ⑰		A			
社会性を育む授業展開	挨拶・身だしなみを整える等の授業規律確保のための指導を徹底する。 ⑦	B	B	シチズンシップ教育の充実を通して、生徒の道徳心や、社会規範を育む。他者を尊重しつつも、自分自身の考えを表明できるようにする。	
	グループ学習やディスカッション等の活動を通して、コミュニケーション力の向上に努める。 ②	B			
	各年次段階に応じた主権者教育を行い、有権者として求められる政治的教養を育む。 ⑩	A			
	「公共」と道徳教育をとおして、社会規範を育む。 ⑨	A			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。 ⑳	B	B		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
数 学 科	基礎学力の定着を図る。	基礎的な副教材や参考書を活用して基礎学力の定着に努め、比・割合等、基本的な計算ができるように指導する。生徒による授業評価における授業満足度の評価平均について3.5以上を目指す。①②⑥	A	B	数学検定の受験を促す。
		考査前に3回程度、小テストや課題を実施し、基本的な問題を解けるようにするとともに家庭学習の習慣の定着を図る。①④	B		
		検定試験の積極的な受検を促し、数学検定準2級合格者をだす。また、検定受験者への個別指導も行う。③	B		
	授業改善を推進し、数学的活動をとおして、数学ができたという実感がもてる授業を展開する。	相互授業参観を活用し、授業の改善点の意見交換をする。また、他教科の参考になる部分を積極的に取り入れ指導力向上に努める。①⑥	B	B	ICT 機器を必要に応じて活用し、生徒の理解を促す。
		主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、グループ学習や発表等を取り入れた授業作りを行う。授業理解度アンケートを行い、授業改善に努め、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。①②⑥	B		
		ICT 機材を活用することにより、生徒の興味・関心を高める。また、グラフや関数を具体的に想像できるように援助する。①②⑤	B		
	進路実現に向けた学力の養成を図る。	進学・就職への対応及びその他検定取得のための課外授業を積極的に実施する。③	A	A	数学検定の受験を促す。
		個々人の進路希望に応じた個別指導を充実させる。③⑬	B		
	働き方改革に関する目標	外部専門家(ベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。⑳	B	B	課題や小テスト等におけるICTの活用など、業務負担の軽減を図る。
		ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。⑤㉓	A		
理 科	基礎学力の定着を図る。	ワークブックやプリントを積極的に活用し、生徒の基礎学力の定着を図る。②	A	B	課題や確認テストなどを実施する。
		授業の単元ごとに小テストや確認テストを実施する。①	B		
	身の回りの事物・現象を自然科学的に考察し探求する力を育成することを目指す。	生徒が身の回りの事物や自然現象に興味・関心を持てるよう、ICT 機材を工夫して活用する。①②⑤	B	B	視覚的に捉えやすい教材の工夫や実験を行い、授業内容の確認が出来るようにする。
		生徒が主体的・対話的に実験・観察を行うことができるよう、各単元の目標に則した探究的な実験・観察を計画、実施する。また生徒の実態に応じた探究活動重視のワークシートを作成する。①③	B		
		器具や薬品の取り扱いをきちんと指導し、安全な探究活動を実施できるよう配慮する。③	B		
	生徒の「わかる」を引き出すため教員の指導力向上と授業改善に努める。	相互に授業参観をおこない授業における改善点を話し合い、個々の指導力の向上や教科内容の充実に努め、授業満足度の評価平均3.5以上を目指す。②⑥	B	B	相互に授業参観を行い、教科内で課題や工夫すべき点等を共有し、授業の改善につなげられるようにする。
		T・T 授業や少人数授業の特性を活かし、個に応じた適切な指導を行う。②④	B		
		小テストの結果を用いて形成的評価を行い、その評価をフィードバックすることにより適切な学習指導を行う。①④	B		
	働き方改革に関する目標	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。⑳	B	B	教材や課題等の共有化を行い、相互に利用出来るようにする。

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育科	基礎体力の向上を図る。	授業時の運動量を確保する。①	B	A	ハード面での制限がかかる場合(雨天時やコート数の少ない種目)の運動量確保
		体力を高めるための体操や補強運動を実施する。①②	A		
		持久走大会を実施し、全身持久力の向上に努める。⑬	A		
	運動中の事故防止に努める。	体育施設・用具の安全管理を徹底し、運動中の事故を未然に防ぐ。⑦	A	B	用具の使用方法や注意点の事前の声掛けで引き続き事故防止に努める。
		体育館・グラウンドの危険箇所を把握し、改善する。⑨	B		
		運動中の事故を防ぐため、健康観察を徹底し、事故の未然防止に努める。⑨	A		
	教科内での研修を充実させ、授業改善を推進する。	定期的に教科会を開き、積極的に情報を交換し、共通理解のもとに授業を展開して授業満足の評価平均3.5以上を目指す。①②⑥	B	B	教員間の情報交換と得意分野の共有により、運動指導の改善と評価の適正化を次年度も継続していく。
		実技指導者講習会等で得た知識や情報を教科内で共有する①	B		
		観点別学習状況評価による評価基準を確立し、それに基づいた評価を行うことで、講座間の評価格差を未然に防止し、評価の適正化に努める。①	A		
	個の能力に応じた指導を行う。	体力テストの結果を用い、個人の能力に応じた指導を行う。②	C	C	体育におけるICTの活用方法は体育館の通信環境を含めて次年度の課題
		ICTを活用し生徒一人ひとりの運動能力に応じた課題を発見させ、その克服に努めさせる。②⑤	C		
	集団行動の技能を身につけさせる。	集合・整列・挨拶等、集団行動の指導を継続的に行う。⑥	B	B	継続して指導にあたる。
	体育的行事のさらなる充実に努める	校内順位発表等により、体力テストや持久走大会等の行事に取り組む意識の高揚を図る。⑦	A	A	体力テスト・持久走大会等継続して実施。
健康な生活を実践するための知識を身につけさせる。	たばこやアルコール・薬物が人体に及ぼす影響について正しい知識を身につけさせる。⑧⑨	B	B	各教員がICTを活用し、アクティブラーニングを取り入れながら生徒の意欲を高め、理解しやすい授業の工夫を継続していく。	
	性教育に重点的に取り組み、正しい行動選択ができる能力を養う。⑨	B			
	健康と運動の関係を理解させることにより、生涯スポーツにつなげる。①⑪	B			
	救命救急講習を通して、救急時の対応・処置の仕方を学び、身につけさせる。①⑦⑨	B			
	がん教育を行い、規則正しい生活習慣を身につけさせる。⑩	B			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	学校行事や活動の精選、外部専門家による指導を活用し、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。②⑮⑳	B	B	継続して精査していく。	
芸術科	基礎学力の向上と芸術の諸能力の伸長	生徒一人ひとりに合わせた個別指導を行い、作品制作やその発表を通して、個々に応じた創造性の育成、芸術的な表現力の向上を目指す。①②	A	A	継続して個々に応じた芸術的な表現の育成を目指す。
	自ら表現する喜びを実感することでの技術の習得	各分野の基礎的な指導を通して芸術性を把握させ、授業の中での演奏・合唱・作品制作など、積極的に取り入れる。個々の実践と実習をすることで、表現する楽しさを実感させ技術の習得を目指す。①	A	A	演奏・合唱・作品など発表の場を設けることを目指す。
	作品鑑賞を通じた鑑賞力と発表力の育成	作品鑑賞を通して芸術性の発見につなげ、個々の感性の育成を目指す。また、鑑賞会などを通して生徒の発表力の育成を目指す。①②	B	B	工夫した相互鑑賞会を積極的に行う。
	授業内容改善の促進	ICTを積極的に活用することで、表現の習得・理解に努め、授業満足度の評価平均について3.5以上を目指す。⑤⑥	B	B	ICTを活用できる環境の整備に努める。
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。㉓	B	B	ICTを活用した成績管理システムの効率化に努める。

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
英語	基礎学力の向上を図る。コミュニケーション能力の育成を図る。	基礎的・基本的な単語・文法を中心とした学習内容について学び直し、トレーニング教材を活用し、不十分なところを補うとともに学習内容の確実な定着を図る。②④	B	A	英検課外の定着	
		ノートや配布プリントを定期的に点検し、定期考査及び家庭学習に効果的に用いることができるように指導する。②④	A			
		個別指導を柔軟かつ適正に行い、多様な生徒の学力の向上を図る。②	A			
		ALTとのティーム・ティーチングを通して、外国人とのコミュニケーション能力の育成を図る。②	A			
		チャイム始業や挨拶・服装指導により授業規律を確保する。①	A			
語	積極的に学習に取り組む姿勢を養う。	授業において教員は極力英語を使用し、生徒にもできるだけ英語で発話させるなど、積極的に英語でコミュニケーションを図る態度を養う。①②	B	B		
		ICT機器やDVD等の視聴覚教材を用いた授業により、生徒の興味・関心を喚起するよう努める。①⑤	B			
		言語活動を通して、生徒の主体的な学習活動を促す。グループワークやペアワークを活用し、アクティブラーニングに積極的に取り組む。①②	A			
科	進路実現に向けた学力の育成を図る。	進学課外や英検対策課外を行うなど、生徒の発展的な学習の機会を確保し、多様な進路志望に応じた指導に努める。③	A	A	検定の指導方法	
	授業内容改善の推進	各種研修会に積極的に参加するように努め、その内容を教科内で共有する。①②	B	B	ICT活用方法の教科内研修	
		相互授業参観や公開授業を実施し、教員間の情報交換や改善点発見の機会を設ける。①②	B			
		ICT機器を積極的に活用すると共に、言語活動を活性化させるための適切な場面設定を行う。生徒による授業評価における、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。⑤⑥	A			
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	外部専門家(部活動指導員やベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。③	B	B		
	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。③	B				
家庭科	基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。	目標や授業計画・評価基準を明確にし、わかりやすい授業を展開する。①②	A	A	TTの利点を活かして、指導につなげたい。	
		教科内で指導方法を共有し、授業展開についての工夫・改善を行う。①	A			
		ICTを活用し個に応じた柔軟かつ多様な指導を行い、家庭学習のふりかえりをおし、学力・技術の向上を図る。②③⑤	B			
		検定試験を積極的に活用し、学習意欲の向上を図るとともに、実習の事前・事後指導、課外等を行い、進路実現に向け指導を充実させる。③④⑯	A			
		「主体的・対話的で深い学び」を意識し、系列・科目選択や進路実現に向け、各年次との連携を図り、個々の生徒の希望や適性に合った選択ができるよう努める。⑯⑰⑱	A			
	授業内容改善の促進を図る。	小テストや授業のふりかえりをおして、学力の向上・技術の向上を図り、適切な評価につながる学習指導を行う。②③⑤	A	A	A	
		生徒間の相互評価や言語活動を積極的に取り入れ、生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均について3.5以上を目指す。⑤⑥	A			
	基本的な生活習慣の確立と規範意識や豊かな心の育成をする。	日々の授業や実習をおして、自主・自立の精神を育み、相手の立場に立って考え、行動することができる人間の育成を図る。⑦⑧⑨⑱	B	B	B	個に寄り添い、地域への関心、貢献、道徳心など培っていく。
		毎授業開始時に服装頭髪指導、生活指導、礼法指導を行い、正しい言葉使い等、規範意識の高揚を図る。⑦⑨⑱	B			
		施設・設備・用具を整え、利用マナーの向上を図る。⑧⑩	A			
地域への関心を深め、郷土に対する愛情を育む。②		B				
校外実習等の充実	校外実習施設や関連機関での体験・実習等様々な経験をおして、望ましい職業観の育成を図る。⑰	A	A	A	地域に関わる体験を増やしていきたい。	
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	外部専門家を活用して、専門教育の充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。⑳㉑	B	B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
情報科	情報に関する知識と技術を習得させる。	情報に関する基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせる。①	A	A	個人のタブレット端末の利用を積極的に行う。Classroomを活用する。
		教科書の内容や身近な例をとおして、ICT等での情報の検索方法や扱い方について十分な指導を行う。①⑤	A		
	基礎的・基本的学力の向上	授業の中で、知識と技術(情報リテラシー)の重要性・必要性を理解させる。①	A	A	継続的な指導をする。
		情報機器の正しい使用方法を理解させ、情報モラルを身に付けさせる。①	A		
		プレゼンテーションをおこなうことによって、自己表現能力を伸ばす。②	B		
	教員の資質の向上と授業の改善	わかりやすい授業の展開を心がけ、常に教材研究に努める。②	A	A	担当者のスキルアップに努める。
		教科書・問題集・補助プリントを利用して反復練習指導を行う。①	A		
		学習指導における問題提起を行い、研究協議を十分に行う。③	B		
		教科会をとおし、指導や観点別評価の在り方等について話し合い、共通理解に努める。①	A		
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	相互授業見学等を行い、指導力の向上を図り、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。①⑥	A	B	
ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。⑳		B			
	学校行事の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。㉑	B			
工業科	自動車整備及び機械・電気・電子・情報技術の分野に関する知識と技術を身に付けさせる。	基本的な生活習慣や、安全に作業する態度を身に付けさせる。①⑦⑩	A	A	
		わかりやすい授業の展開を心がけ、考える力、表現方法を身に付ける。①⑥	A		
		教科書・プリント等を利用して理論の学習をすると共に、実技を身に付ける訓練を繰り返す。②⑥	B		
		各種免許取得のための効果的な学習方法を身に付ける。②③	A		
	ICTなどを利用する現代の指導方法の進歩に合わせた指導や従来の工業技術として培われて継続されている技術の指導を複合させながら、教員の指導力及び資質の向上を目指す。	最先端施設の見学及び様々な研修・実習を行い、実社会の技術進歩を取り込むことで、指導力の向上と、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。⑥⑱	A	A	最先端施設の見学及び様々な研修・実習を効率よく実施していきたい。
		ネットワークを利用した教育の充実、平等公平で意欲が向上するような教育の確立に取り組む。④⑬⑰⑲	A		
		教科会を通して、指導や評価のあり方などについて検討し、共通理解を図る。②③	A		
	ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ワークフローを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。㉑	B	A	
		ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。㉑	A		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
商業科	商業に関する知識と技術を習得させる。	チャイム to チャイムの授業を心がけ、毎授業時間の初めに身だしなみチェックを行い、職業人としての規範意識を身に付けさせる。 ①	A	A		
		大学見学及び模擬授業を実施し、商業に関する知識を深めさせ、勤労観・職業観の育成を図る。 ⑯	A			
		夏季休業や冬季休業に検定対策の課題を課し、家庭学習の充実を図る。 ④	A			
	基礎的・基本的学力の向上	わかりやすい授業を心掛け、個に応じた指導を展開する。 ②	B	B		
		教科書・問題集・補助プリントを利用して反復指導を行い、検定試験に対応した指導を展開する。 ①	A			
	検定への取組	授業の中で生徒に資格取得の必要性・重要性を説明し理解させる。 ③	A	A		課外の見直しを図る(夏課外の有無と冬課外の回数等)
		全員受験・全員合格を目指し、授業・課外等で指導を行う。 ①	A			
		検定に関わる授業の担当者同士で共通理解を図りながら指導にあたる。 ③	B			
		新しい検定基準に対応するための指導方法を検討する。 ③	A			
	教員の資質向上と授業の改善	通常の授業時間における学習指導や、検定合格に向けた取組を通して見いだされた課題や問題点について、その克服のための研究協議を十分に行う。 ①	B	B		
相互授業見学等を行い、指導力の向上を図り、授業満足の評価平均3.5以上を目指す。 ①⑥		B				
教科会を通して、指導や観点別評価の在り方について話し合い、共通理解を図る。 ①		A				
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 ⑳	A	A			
	学校行事の精選を行い、業務量の調整とともに教育活動の質の向上を図る。 ㉓	A				
福祉科	基礎学力の向上と福祉に関する専門知識・技術の定着	個に応じたわかりやすい授業を展開するために、單元ごとの小テストや実技テストなどを行い、定期的に個々の学習定着度の把握に努める。 ①②	A	A		
		教科内での連携や生徒の情報交換を密にするとともに、相互授業参観を積極的に行う。 ①⑩	A			
		自分の考えを文章にまとめたり発表したりする機会を授業で必ず設けるほか、ICTを活用して施設実習後に体験発表会を行うなどし、自己表現能力を向上させるよう努める。 ②⑤	B			
	授業内容改善の促進	小テストや授業のふりかえりをとおして、学力の向上・技術の向上を図り、適切な評価につながる学習指導を行う。 ②③⑤	A	A		
		生徒間の相互評価や言語活動を積極的に取り入れ、生徒による授業評価における、授業満足度の評価平均について3.5以上を目指す。 ⑤⑥	A			
	介護職を目指す者としての意識の向上	毎授業開始時に服装や礼法の指導を行い、基本的生活習慣やマナーを定着させる。 ⑥	B	B	ICTの活用について環境を整えること。生徒のタブレット等の活用頻度を増やしたい。また、卒業後に福祉系の進路に進めるような支援も強化していきたい。	
		自ら考えて行動する姿勢や奉仕の精神を育てるような働きかけを積極的に行い、介護職を目指すうえで必要な素養を高める。 ⑦⑰	A			
		介護福祉士国家試験の過去問題やICT等を活用し、福祉専門職についての理解を深め、卒業後もさらなるステップアップができるような取組みを積極的に行う。 ③⑤⑰	B			
	校外実習等の充実	実習施設との打ち合わせを十分に行うとともに、目的意識と責任感をもって実習に臨めるように事前指導を充実させる。 ⑦⑯⑰⑳	A	A		
		在宅福祉・障害者福祉に関する施設の見学・体験実習を取り入れ、幅広く福祉を学ぶ機会を提供する。 ⑦⑰	A			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	ICTを活用したペーパーレス化を推進し、文書事務の簡略化に努める。 ㉓⑳	B	B	ICTを活用した教材等を教員間で共有して、教材情報の効率化を今以上に図りたい。		
	完全退勤時間および定時退勤日を設定する。 ㉓㉔	C				
	ICTを活用した教材研究を推進し、教材情報の共有や成績管理の効率化を図る。 ㉓㉔	A				

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
産業社会と人間	自己を理解する。	授業の中で自分自身を見つめ、自身の持つ可能性を追求する。②	B	B	自己理解を深めるプログラムの企画立案。
	望ましい勤労観・職業観を育成する。	外部講師の講演を聴くことにより、将来の方向性について考えるとともに、高校生としての在り方・生き方を意識させる。③	A	A	外部講師の講演やガイダンス等を通じて高校卒業後の進路について生徒に有用な話をしてもらうようにする。
		進路ガイダンスを通して、自分の将来について見つめ直す。③	A		
		社会における自己の在り方・生き方について考え、寛容性、協調性など社会人に必要な力を養う。⑩	A		
	自己実現のための進路選択をする。	適性検査の結果を踏まえ、自分の適性を客観的に理解させるとともに、様々な仕事や学問の分野についても理解させる。④	B	B	ガイダンス等を通して、様々な仕事や学問の分野についても理解させ、それをライフプランの完成に結びつける。
ライフプランの作成により、各自の進路目標に沿った科目選択が出来るよう支援する。また発表をおおして、将来の進路について真剣に考えさせる。①②		B			
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	外部専門家(部活動指導員やベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに業務負担の軽減を図る。⑳	B	B	業務負担軽減が実感できるようにする。タブレット端末の早期からの利活用促進。	
総合的な探究の時間(道徳含む) 一年次	個性の伸長に努め、価値ある人生を追究する。	基本的な生活習慣を確立し、心身の調和のとれた生活を身に付けさせる。⑥⑫	A	A	日頃からの継続した指導が重要である。
		人生の理想を求め、希望と勇気を持って積極的に生き抜く強い意志を養わせる。⑦⑬	B		
	他の人々の立場を尊重し、感謝と思いやりの心を育てる。	礼儀の意義を理解させ、TPOに応じた適切な言動をとれるようにする。⑥⑧	A	B	挨拶の大切さを伝えるなど、人間関係構築のために相手の立場の尊重が必要である。
		他の人々の立場を尊重し、感謝と思いやりの心を持つようにする。また、真の友情を育み、信頼し合い、励まし合う心を育てる。⑦⑩	B		
	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の命を尊重する。	自然を愛護し、美しいものに感動できる豊かな心を育てる。⑦	B	A	日頃から「生命の尊さ」を意識した指導が重要である。
		いのちの大切さを自覚させ、希望を持ってよりよく生きていこうとする意欲を育てる。⑦⑩	A		
	社会の一員として自覚と責任を持ち、周囲の人々に尊敬と感謝の念を深め、信頼関係及び良い校風を築く。	集団の意義について理解を深めさせ、自己の役割と責任を考えさせる。⑬⑭	A	A	社会生活における規範意識の向上に努めるために、外部講師の活用も含め、年間を通じて継続的に指導が必要。
		学校生活における規則の意義を理解させ、社会の秩序と規則の順守意識を高めさせる。⑧	A		
		正義を重んじ、差別や偏見のない社会を目指す。⑦⑧	A		
		家族の大切さを理解させ、家族の一員としての自覚と責任を持たせる。⑦	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	外部専門家(部活動指導員やベネッセなどの民間企業など)を活用して、専門教育の充実を図るとともに業務負担の軽減を図る。⑳	B	B	業務負担軽減が実感できるようにする。タブレット端末の早期からの利活用促進。	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
総合的な探究の時間 二年次	自己の生き方について考察し、進路実現のための学習に取り組む。	進路ガイダンスや進路学習をとおして、自己の進路についての意識づけを図るとともに、進路実現に向けて自己の適性を知り、進路の見通しを立てられるよう支援する。 ③⑬⑰	B	B	
	自ら学び考え、主体的な行動ができる能力や資質を養う。	学校行事等をとおして、コミュニケーション能力を高めるとともに、自ら考え適切な判断や行動をし、主体的に問題解決する能力や資質を養う。 ②⑥	B	B	
	社会の中での自分の存在を認識し、社会人となるための意識を養う。	文化祭や修学旅行等の学校行事をとおして、自らの役割を自覚して積極的に行動する力を養うとともに、他と協調して行動する姿勢を育てる。 ⑦⑫⑬	A	A	
		外部講師による講演会や職場見学などをとおして、望ましい勤労観・職業観を育てるとともに、社会人として必要な資質を養う。 ⑧⑰	A		
ワークライフバランスのとれた職場環境を実現する。	民間企業や外部講師を活用して教育の質と充実を図るとともに、業務負担の軽減を図る。 ⑳	B	B	業務負担の軽減	
総合的な探究の時間 三年次	自己の可能性の発見や自己実現に向けての考えを深めさせるとともに、進路実現に必要なスキルを高める。	一般常識対策(Classi等)・作文練習・面接練習等を行い、進路実現に必要な力を育てる。また、求人票の内容や奨学金等について正しく理解させ、適切な進路選択に必要な情報を収集する力を身に付けさせる。 ④⑯⑱	A	A	
		外部進路業者と連携して進路別学習を行い、より具体的・積極的に進路活動に取り組ませる。また、情報機器を使用した面接指導等を行い、いかなる状況下においても対応出来る人材育成を行う。 ③⑤	A		
	社会人として必要な知識を身に付けさせ、自己の在り方・生き方について考えさせる。	租税教室、外部講師による講演会等の機会を設けることにより、社会人として必要な基礎知識を学び、生活を自律的に管理し、地域や社会に資することができる意識・態度の醸成を図る。 ⑦⑧⑨⑱	B	B	金融教育の講演を実施する。

※評価基準： A：達成できている B：概ね達成できている C：あまり達成できていない D：不十分である